

## 常になぐさめる

せたな町立国保病院

院長 森 利光

徳島、若松、愛知などの地名があるせたな町は、移住者により発展した町です。高齢化率47%ですが元気な高齢者が多いのも事実です。90歳以上の男性の40%は非介護認定者です。食物自給率900%で、一次産業従事者は23%を占めます。彼らには定年も引退もなく、自分の判断で第一線から退くのです。2世代、3世代前に北海道に住み着いた子孫がほとんどですが、第2次大戦後に移住された方もおります。

中村<sup>1)</sup>は、北海道移住の特性を次のように述べています。

北海道移住者は最初から入植地、生業が決まっている者は少なく、渡道後はこれを求めて移動して歩いた。また、いったんそれを得てからも、さらに良好なところを求めて土地を変え、職種を変えて移住を繰り返すのが通例であり、常態であった。北海道移住の特質は、移住後も移住を繰り返す再移住過程にあった。移住の要因は、全国各地で普遍的であった。人口の過剰、農地の不足、生業の喪失・不安定ということがまず大前提にあり、そのもとで水害・地震・津波などの被災による自然条件、不況・失業・生活難などの経済的条件、開拓による国家への貢献、移住のプロパガンダ・奨励などの社会的条件、移住ブームの影響やデマなどによる北海道への幻想、「成功者」への模倣という心理的条件がある。これらの条件が作用して移住への意志が形成され、最終的には血縁・地縁関係者などによる「呼び寄せ」・誘導によって決断され、移住がなされるものである。

移住オルガナイザーが存在し、移住のみならずその後のコミュニティの形成にリーダーシップを発揮したとも述べています。

今また新たな移住ブームが始まっています。地方に住む高齢者が、住み慣れた町から子供の暮らす都会へ移住しているのです。せたな町でもこの10年間で315人の高齢者が移住し、せたなを去りました。8,000人規模の町にとって少なくない数です。毎日の水落としや除雪作業が面倒になり、通院の足が自由にならなくなってきました。遠方から心配で様子を見にやってくる子供たちに面倒をかけたくないと思います。一人暮らしの維持に不安を募らせた子供たちの誘いに応じるのは止むを得ないことなのです。全道で同様の事象が起きているとすると、流入してくる札幌の介護施設は厳しい対応に追われていることが想像できます。

2025年度までに医療の給付費は1.4倍に伸びると

されていますが、その対策の一つが地域医療構想です。地域医療構想の背景にはベッド数削減があることは明らかです。しかし、その根幹は地域包括支援です。高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生活できるような体制づくりです。医療面で何が支援できるのか考えています。体のあちこちに変調をきたし不安を抱えた高齢者に何ができるのか。高齢者の特性とcommon diseaseに精通し、気軽に相談に乗り、いつでも対応すること。病院へ来るのが大変になった人には訪問する。必要であれば適切な専門医をタイミングよく紹介する。これはまさにプライマリ・ケア医そのものです。他国に比べ専門医の割合が圧倒的に多い本国において、せたな町でも町民の専門医志向は強く、それはまさに専門医信仰と言ってもいいくらいです。専門医信仰は住民にとっても専門医にとっても不幸なことです。患者は「専門医巡礼」で疲れ果て、専門医はその専門性を有効に発揮できない状況が生まれています。北海道の医者半分のプライマリ・ケア医にしようとの壮大な夢を持ったメンバーで北海道プライマリ・ケアネットワークをかつて組織しましたが、専門医の厚い壁を破ることはできませんでした。

専門医信仰を解くためには何が必要か考えます。何よりもその土地に腰を据えて住民と向き合うことが第一です。Common diseaseに精通し、救急にはいつでも対応しトリアージを行い、安定した慢性期の患者さんには継続して治療にあたる。これだけで住民の医療ニーズの80%はケアを提供できそうです。

ジョン・フライ<sup>2)</sup>は「プライマリ・ケアとは何か」を40年ほど前に抒し、将来のニーズとして次のように述べています。

優先すべきは、現代社会で稀有になっている二つのもの、すなわち誠実と謙譲である。誠実とは、現代医療の可能範囲には、厳重な制限があることを明確かつ強く発表するチャレンジである。自己や自己の専門に限界があることを受け入れねばならない。われわれにできることは、いまだに『時に癒し、しばしば苦痛を和らげ、常になぐさめる』だけである。常に誠実であることと共に、謙虚であるように努めなければならない。医学には未知のことが多くある。未知の症例、予知できぬ経過、不確実な治療等々。新しいことが必ずしも最良ではなく、古いことが必ずしも悪いことではない…。

40年が過ぎてジョン・フライの言葉がいつそう光り輝いています。

## 参考文献

- 1) 中村英重 北海道移住の特質と移住動態 歴史地理学 44-1 (207) 37-47 2002.1
- 2) ジョン・フライ プライマリ・ケアとは何か 医学書院 1981